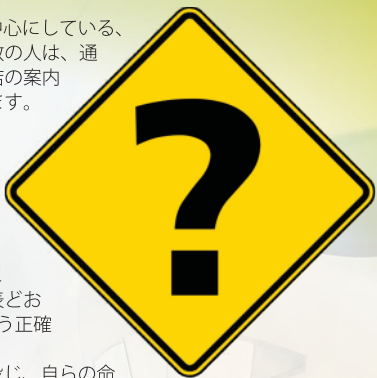


池戸ファビオ

人生の意味と
行くべき道を求めて

日本では、ほとんどのものが電車を中心にしている、と言っても過言ではないでしょう。大多数の人は、通勤や通学に鉄道を利用しますし、街やお店の案内には、たいてい最寄り駅が記載されています。また駅は待ち合わせ場所にもなります。忠犬ハチ公も、主人が大学での仕事を終えて帰ってくるのを、駅前で毎日楽しみに待ちました。その同じ場所で、ハチ公は主人が亡くなった後も、その帰りを待ち続けたのです。時計の時刻を調整しようと思うなら、新幹線の時間に合わせることでできるでしょう。新幹線は時刻表どおりに運行していて、遅れても6秒以内という正確さだからです。



ところが一方で、多くの人々が身を投じ、自らの命を絶つ場所として電車を選んでいる現実もあります。日本では、15分から20分毎に1件の自殺が発生しています。人生の意義を見出せず、心の中の深い空虚感に悩まされる人たちが、この日本に数多くいる、ということなのです。

世界でも最も生活水準が高いといわれるこの国において、「望み」が失われた状況があるのをどう説明したらいいのでしょうか？

たとえ人生で計画したすべてのものを成し遂げたとしても、それは心の平安と人生の意味を見出すために十分なものとはならないのです。この世界が創造されたときから、人類はこれらを満たすものを探しつづけています。ギリシャの哲学者プラトンは、「人生で何が重要かを発見するために、争いを待ってはいけません」という言葉を残しています。

人は、人生の意味や自分が成し遂げることの重要性を、どんな時に考えるのでしょうか？ 医者として私は、たくさんの人たちが、事故に遭う、あるいは重い病気になるなどの予期しない、悲劇とも言える知らせをうけた時に、初めてこれらの事について深く考える姿を目の当たりにしてきました。つまり、死に直面した時（または人生のはかなさを認識する時）が、真に大切なものの価値を見直す機会となっているのです。人は自分が難病で死にかかっているときに、どの野球チームが何度優勝したかや、20年前に別の科目を履修しておけばよかった、などとは普通考えません。今までの日々の忙しさの中で見過ごされてきた、本当に重要なことに、その人の考え方の焦点が当てられることになるのです。

米国で、末期患者340名、最近家族を亡くした人332名、医師361名および終末期医療従事者429名に対して、「人生の終わりに、何が一番大切だと思いますか」というアンケートが行われました。44の質問のうち、患者や家族の回答では、「痛みがなくなること」と、「神における平安」という二つが同数で一位でした。これは、第2次世界大戦中に強制収容所で亡くなり、後にカトリック教会によって殉教者として列聖されたエーディット・シュタインの「真理を求める者は、意識的か無意識的に関わらず、神を求めているのです。」という言葉を思い出させます。

神を信じない人でも、どのような人でも、誰でもいつの日か立ち止まって人生の本当の意味を深く考える時が来るのです。「神は死んだ」と宣言した19世紀の偉大な哲学者ニーチェまでが、イエス・キリストに関して、ある友人にこのように書き送っています：「私は分かっている、彼を見つけなければ、私の人生に答えは見つからないことを」。

ニーチェのように、誰もが自分の人生に目的や意味を与える何かを探しています。有名な精神科医カール・ユングは、数十年前に「今日の世界は、虚しさのノイローゼに苦しんでいる」と述べています。

私たちは、対照的なものの中で今の時代を生きています：新生児がこれから生きると期待される寿命がますます長くなる一方で、人生に希望を失った人々の数も増し、高齢者を含め自殺者の数が増加しています。世界の人口は増加して生活する場所が少なくなっているのとは対照的に、人々はますます人生に空虚を感じ、人生の意味と平安を求めて飢え渴いているのです。

アメリカの精神科医ジェラルド・ジャンポルスキーは、自分が心の平安を体験するために、周囲の人が変わる必要はないと断言しました。聖書のローマの信徒への手紙5章1節にあるように、神との平和はイエス・キリストを通して与えられるのです。そしてそれを信じることは、一人ひとりが個人的にすべき決断です。

ワルドー・エマーソンは、「私たちの背後にあるものや目の前にあるものは、私たちの内にあるものに比べて、非常に小さな問題である」と述べました。

人間の心にある空しさは、人間と神との間にある距離とに関係しています。聖書は、私たちの罪が、私たちを神から離していると述べています。(イザヤ59章2節) たとえ、嘘つきや殺人犯や泥棒でなくとも、悪は私たちすべての中に存在しているのです。そのため人は、自分の考え、行動、または怠慢によって、間違いを犯すのです。これが、聖書の中で「罪」と呼ばれるものです。我々はすべて罪人であり、それが神との間に障害の壁を作っているのです。どれだけ良い行いをして、ありとあらゆる宗教活動に携わったとしても、自分たちの努力ではその障害の壁を破ることはできないのです。

けれども、神様はイエス・キリストを世界に送ることにより、罪という問題に対する解決法を備えてくださいました。イエスは私たちの罪を背負って十字架上で死なれ、私たちのすべての罪を赦すために血を流されました。イエスはよみがえり、死を打ち破られたお方です。イエス・キリストは生きておられ、「疲れたもの、重荷を負っているものは、誰でもわたしのもとに来なさい、わたしがあなたがたを休ませてあげよう」と招いておられます。そして、私たちはこれに応える必要があるのです。この招きに前向きに応えたいとあなたが望むのなら、次のお祈りをしてください。

「主なる神様、私はこうしてありのままの状態です。私は主なるあなたを、そしてイエス様が私の代わりに死んでくださった事実を信じます。ですから、どうぞ、わたしの神となり、救い主になってください。私は全て思い出せないほど多くの罪を犯してきました。本来なら神様に裁かれ、罪に定められて当然の者です。しかし今、イエス様が十字架上で私のために勝ち取ってくださった罪の赦しを受けたいと願います。どうぞ私のすべての罪を赦してください。あなたを私の人生にお迎えいたします。すべての罪を清め、この私の心の中の虚しさをどうぞあなたの愛で満たしてください。そして私の人生の本当の意味と行くべき道をどうぞお示してください。イエス様が私に与えてくださる救いを感謝します。イエス様のみ名によってお祈りします。アーメン。」

今まで空しさが支配していた場所に希望があふれ、今新しい人生が始まりました。「あなたがたの中におられるキリストは、栄光の望み」（コロサイの信徒への手紙1：27）と聖書に書いてある通りです。

もしあなたが上記の祈りをしたか、もしくは、何か質問がありましたら、ぜひ下記のメールアドレスにご連絡ください。
fikedo@hotmail.com